

【鳴門市行政評価】

平成27年度事務事業評価シート(26年度実績)

◎基本情報

事務事業名	災害用備蓄事業		担当部署	企画総務部 危機管理局 危機管理課		
総合計画体系			根拠法令 計画など	鳴門市地域防災計画・鳴門市地震津波対策推進計画・国民保護法第146条・災害対策基本法第49条		
基本政策(大項目)	3	しっかり安心・快適住み良いまちづくり	事業期間	開始	平成	16年度
政策(中項目)	1	安心して暮らせるまち なんと			終期	未定
(小項目)		危機管理・防災				
施策	1	災害に負けないまちづくりの推進				
基本事業	3	防災施設・資機材等の整備				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 災害時に避難した市民等の避難者														
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	災害時に避難所での生活を余儀なくされた市民等が少しでも安心して過ごせるよう、計画的に備蓄物資を整備する。														
事業計画	26年度に何を計画していたか	県と市町村の役割分担や備蓄目標を定めた「南海トラフ地震等に対応した備蓄方針」で示されている目標数量を達成するため、備蓄食糧の移管・更新作業を引き続き行いながら、アルファ化米等の備蓄を推進する。 また、市民への災害用備蓄の啓発や、災害用備蓄資機材の整備等についても継続して取り組んでいく。														
成果目標	事業目標の達成度合	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アルファ化米の備蓄量</td> <td>12,450</td> <td>18,350</td> <td>23,750</td> <td>29,500</td> <td>34,400</td> <td>食</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	単位	アルファ化米の備蓄量	12,450	18,350	23,750	29,500	34,400	食
指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	単位										
アルファ化米の備蓄量	12,450	18,350	23,750	29,500	34,400	食										

◎実施結果(DO)

事業実施内容	26年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	県と市町村の役割分担や備蓄目標を定めた「南海トラフ地震等に対応した備蓄方針」で示された目標数量を達成するため、平成26年度は、アルファ化米(おかゆ含む)を7,900食、粉ミルクを8,750g、飲料水を3,690リットル分(給水袋)、毛布を460枚購入した。また、賞味期限切れ間近となったアルファ化米を活用し、市民への災害用備蓄の啓発を行うとともに、災害用備蓄資機材の整備等についても継続して取組んだ。						
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
指標名		25年度実績	26年度実績	27年度目標	28年度目標	29年度目標	単位	
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	アルファ化米の備蓄量	12,450	17,868	23,750	29,500	34,400	食
	2	粉ミルクの備蓄量	48	25	25	25	25	缶
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	アルファ化米の備蓄量		12,450	17,868	—	—	—	食
	目標達成率(実績/目標)			97.4	—	—	—	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況		計画どおり				

(千円)

財源内訳	平成26年度	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
		当初予算額		0	0	0	0	983	983
		全体予算額		0	2,000	0	0	820	2,820
		決算額		0	2,000	0	0	820	2,820
		繰越額		0	0	0	0	0	0
	人件費		正規職員(6,878千円/人)	臨時職員(2,023千円/人)	総人件費		総事業費		
		0.1	0.0	688		3,508			

事業費推移	年度	25年度決算	26年度決算	27年度	28年度	29年度
	事業費	3,135	2,820	2,461	2,461	2,461
	うち一般財源	945	820	2,461	2,461	2,461
	人件費	326	688	679	679	679
	総事業費	3,461	3,508	3,140	3,140	3,140

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった		「南海トラフ地震等に対応した備蓄方針」にある備蓄目標の達成に向けて、着実に備蓄を進めることができたため。
	効率性	B:概ね効率的だった		備蓄食糧等の移管・更新作業について、学校施設の発電機の点検時に併せて作業を行うなど、効率化を図る手法を検討する余地があるため。
②成果に対する評価	指標名	アルファ化米の備蓄量		目標には到達しなかったためB評価とした。
	目標	18,350	食	
	実績	17,868	食	
	評価	B:概ね目標を達成できた		
③総合的な評価		<b>B</b>		目標には到達しなかったためB評価とした。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	南海トラフ地震等に対応した備蓄体制を構築するため、県と市町村の役割分担や備蓄目標を定めた「南海トラフ地震等に対応した備蓄方針」では、平成30年度までに備蓄目標としてアルファ化米通常食用30,630食、アルファ化米要援護者用9,078食、粉ミルク8,750グラム、飲料水60,000リットル、毛布10,000枚の備蓄に努めるよう示されており、予算と備蓄場所の確保が課題である。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	<b>4</b>
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H27年度	予算の確保に努め、従前より備蓄を行ってきた市災害対策本部13支部に加え、災害時には児童や生徒だけでなく、地域住民の避難所になる小・中学校に、今後は重点的に備蓄を行う。			
	H28年度	予算の確保に努め、従前より備蓄を行ってきた市災害対策本部13支部に加え、災害時には児童や生徒だけでなく、地域住民の避難所になる小・中学校に、今後は重点的に備蓄を行う。			